

就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	sekf-A・オンステージ鶴間	事業所番号	1413001080
住所	神奈川県大和市西鶴間1-17-1 芙蓉ビル3F	管理者名	工藤 絵美
電話番号	046-204-9105	対象年度	2024年度

地域連携活動の概要	
<活動内容> 【活動場所】 株式会社日本フードエコロジーセンター 相模原市中央区田名塩田1-17-13 【実施日程】 月曜日～金曜日(週3日 09:00～14:00) 【実施した生産活動・施設外就労の概要】 食品リサイクル事業及び飼料製造事業に係る食品残渣(食品循環資源)分別仕分け作業またはこれに付随する業務 【利用者数】 5名(基本)	<活動の様子> 活動の様子と仕分け後の食材の写真  仕分け前食材の写真 
<目的> 【地域連携活動のねらい】 地域企業と連携し、障がい者の方が社会経験を重ねて一般就労に繋げていく。職場のマナーや知識・技術を身に付け、出来る作業を増やして自信を高めていく。 【連携活動のメリット】 一般企業でも就労環境を配慮することで障がい者の方が就労可能であることを実業務を通じて理解できる。それを踏まえ、直接雇用の選択肢として障がい者を加え、人手不足の企業や地域を支えていく人材の確保と育成が期待できる。 【対象者にとってのメリット】 様々な作業を体験することで、出来る作業を増やし、自分に合った職域拡大の可能性を見いだせる。同時に一般企業での就労を通じ自らが社会に必要とされることの実感を得る。またメンバー同士で創意工夫しながら作業することで協調の実践の場ともなる。	(活動内容の追加コメント) 素早く食材を仕分けするには、いかに、手際良く、効率的に実施するかを学び、簡単な作業の中でも、一つの食材には、数種類に区分される包装材や食材が含まれているのもあり、それらを、自身の判断で、正確に区分分けができるようになることを目指す。
<成果> 【実施した結果・得られた成果】 食品リサイクル事業の一端をになっている使命感を持ちながら異物混入の無いように責任をもって食材の仕分け作業をする意識が高まってきた。 【課題点】 個人の能力差に開きがある。作業性を上げるには、どのようなやり方が良いか、他のメンバーを参考にするなど、自身の能力の向上を促す。	

連携先の企業等の意見・感想			
<成果> 【連携した結果に対する評価】 SDGsという言葉が幅広く知られるようになる中、食品ロスの問題も大きくクローズアップされるようになった。弊社はそうした食品ロスなどを加工して養豚用の液状飼料にする工場であり、包装付きの食品も多く搬入される。オンステージ鶴間様には弊社工場で開封に手間のかかる食品を、早く、かつ正確に開封していただいており、作業効率の向上という点で非常に助けていただいている。 【今後の連携強化に向けた今後の課題】 現在は原則として週に3回のペースで作業を行っていただいているが、業務の対象である包装付きの食品の搬入量が必ずしも安定しておらず、せっかく作業に来ていただいたのに品物が無い、といったケースがある。また逆に大量の災害備蓄品が搬入された場合などは通常のやり方だと対応が間に合わずオンステージ鶴間様に開封を依頼することが多いが、人数や時間の制限で開封しきれないこともある。今後はさらなる効率向上のため、週当たりの日数や就労曜日の柔軟な対応などが課題。			
連携先企業名	株式会社日本フードエコロジーセンター	担当者名	高原 淳